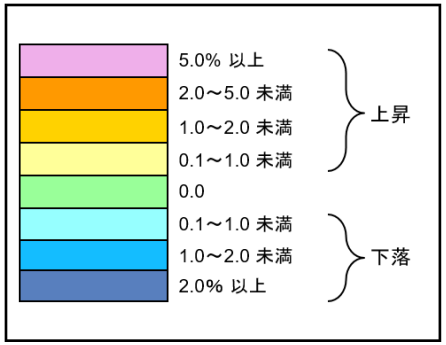
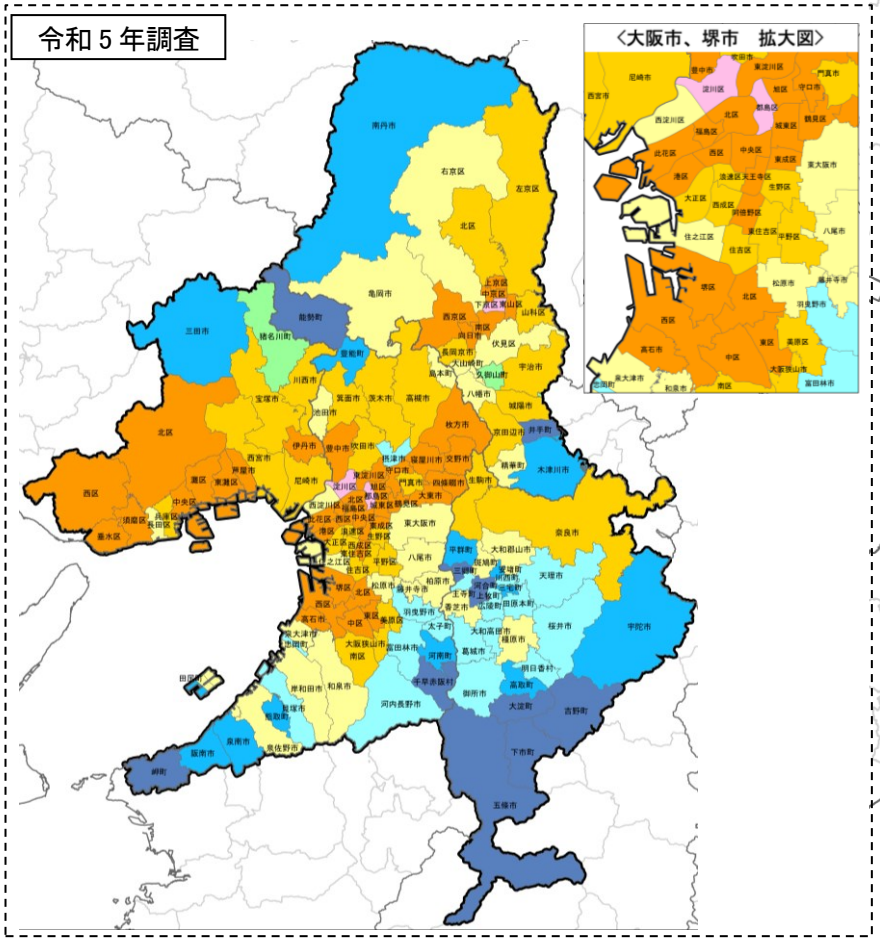
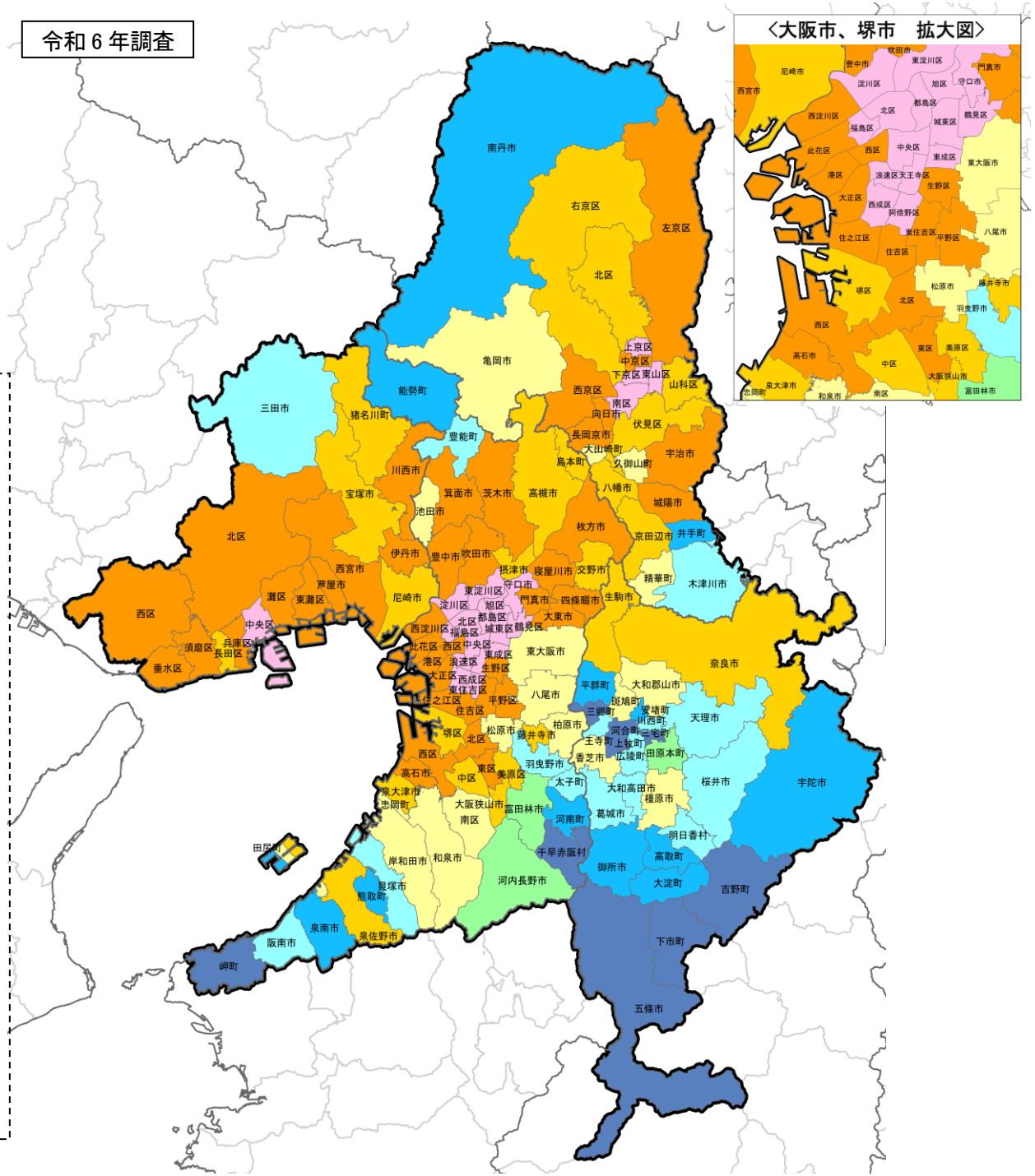
３．大阪圏の住宅地

※（　）は前年変動率

京　都　府	○京都市では、2.6%上昇（1.7%上昇）。利便性の良いエリア、居住環境が良好なエリアにおける需要は底堅く、全区で上昇となり、上昇幅は拡大した（下京区以外）。上昇率トップは下京区で 6.0%上昇（6.2%上昇）。 ○京都市より南部では、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、大山崎町、精華町は上昇幅が拡大し、久御山町が横ばいから上昇に転じた。木津川市、井手町は下落幅が縮小している。 ○京都市より北部では、亀岡市は上昇幅が拡大し、南丹市は下落幅が縮小している。
大　阪　府	○大阪市では、4.5%上昇（2.5%上昇）。需要の強い中心部の駅近マンション用地や従来から選好性の高い住宅地は、供給不足感から上昇傾向が強い。 ・住宅需要が強い都心接近性に優れた地域、富裕層に需要のある地域では、供給不足から上昇傾向が継続し、中央区は 7.4%上昇（3.7%上昇）、阿倍野区は 5.2%上昇（2.3%上昇）、福島区は 7.6%上昇（4.3%上昇）、天王寺区は 6.7%上昇（4.7%上昇）、北区は 6.0%上昇（3.2%上昇）となった。 ・市中心部へのアクセスが良好な地域の需要は引き続き堅調であり、城東区は 6.7%上昇（4.5%上昇）、都島区は 6.2%上昇（5.1%上昇）、鶴見区は 6.5%上昇（3.2%上昇）、淀川区は 6.5%上昇（5.3%上昇）となり、中心部の地価上昇が波及し、上昇幅が拡大した。 ○堺市では、2.3%上昇（2.8%上昇）。西区は 3.3%上昇（3.3%上昇）したが、それ以外の区は建売在庫が増えていることから上昇幅が縮小した。 ○立地環境から人気の高い北摂エリア北部では、生活利便性の良好な地域の需要は引き続き堅調であり、箕面市は 2.6%上昇（1.9%上昇）、豊中市は 3.4%上昇（2.1%上昇）、吹田市は 3.8%上昇（1.7%上昇）と上昇幅が拡大した。 ○東大阪地域の京阪沿線等の利便性良好な地域では、守口市は 5.1%上昇（3.5%上昇）、門真市は 3.5%上昇（1.4%上昇）、枚方市は 2.6%上昇（2.0%上昇）、四條畷市は 3.6%上昇（2.9%上昇）となり、上昇幅が拡大した。
兵　庫　県	○神戸市では、3.2%上昇（2.4%上昇）。全 9 区で上昇幅が拡大した。居住環境の良好な住宅地の需要は堅調で、中央区は 6.0%上昇（4.8%上昇）、東灘区は 3.8%上昇（2.6%上昇）、灘区は 4.1%上昇（3.4%上昇）となった。また、中心部の地価上昇により需要が周辺部にも波及し、北区は 2.9%上昇（2.4%上昇）、西区は 3.3%上昇（2.1%上昇）となった。 ○阪神間（尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市）は神戸及び大阪の通勤圏であるという利便性から上昇幅が拡大している。JR 芦屋駅周辺地域は、名声の高い住宅地であることから、旺盛な需要が認められ、芦屋市は 3.8%上昇（3.3%上昇）となった。
奈　良　県	○奈良市では、1.1%上昇(1.1%上昇)。近鉄学園前駅、大和西大寺駅徒歩圏の住宅地は富裕層中心に人気が高く、上昇が継続している。近鉄奈良線、同京都線、同けいはんな線各駅勢圏の住宅地も人気が高く、引き続き需要は堅調である。 ○大和郡山市、橿原市、生駒市では上昇幅は拡大し、香芝市、斑鳩町は同率の上昇率となり、田原本町は下落から横ばいに転じた。

市区町村別の状況（大阪圏・住宅地）